

変化し続ける現代社会の中で うつ病や認知症の増加で当院の果たす役割も増していく

既に勤続年数が30年以上となり、清水駿府病院に在籍する医師の中では最古参になりました。私が当院に赴任したばかりの頃は、精神疾患を世間に知られないようにしよう、包み隠そうという風潮がまだ色濃い時代でした。精神科専門病院の数も少なく、清水、静岡以外の地区からもわざわざ受診される患者様がたくさんいらっしゃいました。その後、精神疾患や精神障害の名称も一部変わり、今では精神疾患が社会に広く受け入れられるようになったと感じています。

病院内の体制もこの30年の間に大きく変わっています。まず建物が一新し、紙のカルテの分厚いファイルがあった時代も過ぎ去り、今は電子カルテが当然の時代となりました。また、以前は治療や看護以外の多くのことも医師と看護師で対応していたのですが、法律や制度も変わり、精神保健福祉士、作業療法士など精神疾患の患者様をさまざまな角度から支援する専門職が増え、医師は治療に専念できる環境が整ってきました。

今後は、医療改革で病床数の減少がさらに進んでいくと思われませんが、精神科には他の身体疾患と異なる特質があり、社会復帰が難しい方も少なからず存在しています。また、入院生活を続けているうちに高齢になり、自宅や地域に戻る事が難しくなってきた方も少しずつ増えています。こういう状況を考えると、やはり清水駿府病院のような精神科専門病院の存在

価値は大きく、これからも多様な患者様に対応していくことが期待されます。

そして通院が可能な患者様は当院のようなサテライトクリニックが対応し、社会復帰に関してはデイケアや作業療法室の役割が重要になっていくのではないのでしょうか。新清水クリニックは開院から5年目を迎え、連日大勢の外来患者様が受診にいらっしゃいます。職員が一丸となりていねいな対応を心がけ、診察ではその患者様の症状や生活環境を正しく理解した上で治療の方向性を決めています。精神疾患は現代社会の世相を反映していると言えます。ストレス過多の社会から生じるうつ病、超高齢化社会で急増していく認知症。どちらも今後ますます患者様の数が増え、精神科を受診する方が多くなると予測されます。当院が果たす役割もさらに増していくのではないのでしょうか。

精神科医 水野明典 先生

